

高知大学 病院ニュース

〔編集〕
 高知大学病院ニュース
 編集委員会
 委員長 井上 啓史
 〔発行人〕
 高知大学医学部附属病院
 病院長 横山 彰仁



平成29年度 国立大学法人高知大学年度計画

◆ 附属病院に関する目標を達成するための措置 ◆

高知大学医学部附属病院では、
 第三期中期目標・中期計画に基づき、平成29年度も、安心・安全に配慮し、
 がん・地域医療・災害医療など社会的ニーズの高い医療に対応するために、
 「先端医療の開発・導入の促進と地域医療を支える医療人の育成」を掲げ、
 これらの目標の達成に向けて次の取組を計画しています。



1 医療の質・安全の向上に資するため、クオリティ・インジケーター(診療の質指標)の測定結果の分析、評価、改善等を行う。

特に医療安全や感染対策の質を向上させるため、医療従事者への教育・研修体制を充実するとともに、その取組について国立大学病院間相互チェック等を通じて、病院機能・運営を強化する。

医療の質と安全性を高めるために、本院独自のクオリティ・インジケーター(診療の質指標)項目の拡充とホームページ等による社会への公表及び医療安全管理研修のe-learning導入など研修体制の充実を図る。感染対策、褥瘡予防対策などの指標分析や国立大学病院間相互チェックの外部評価の結果に基づく改善を継続的に行う。



2 地域医療の中核機関として、がん・地域医療・災害医療など社会的ニーズの高い医療に対応するため、がん治療センターを中心とした集学的治療や低侵襲性の治療技術の向上、救急医療体制の充実を行うとともに、トリアージ訓練など大規模災害に備えた災害医療教育を行い医療従事者の災害対応技能を向上させる。

1) がん診療連携拠点病院として、がんに対する集学的治療や低侵襲手術の適応拡大、がん緩和治療の充実を行うとともに、高知県の特徴的な疾患に対し地域の医療機関と連携を行い治療・予防など患者のQOL向上を図る。

2) 災害・救急医療学講座を中心に、災害医療教育を継続的に実施し、県下の行政・地域医療機関等と知識・課題の共有化を図る。



3 地域医療を担う大学病院として、在宅医療・介護連携のICTシステムを構築し、情報端末等を活用した在宅医療を推進する

など地域医療ネットワークを充実する。

ICTを活用した医療・介護情報共有システムを活用し、医療・介護連携体制の拡充を図る。



2 地域医療等を担う医師・メディカルスタッフの養成や地域への定着を促進するために、地域医療の観点から卒前・卒後・専門医・生涯までの一貫したキャリアアップのための教育・研修プログラムを提供するなどの教育研修体制を整備する。

高知地域医療支援センター及び医療人育成支援センターが協働して、新専門医制度に向けた卒前・卒後・専門医・生涯までのキャリア支援体制を強化し、シームレスに繋がる教育・研修プログラムを提供する。



3 次世代医療創造センター及び先端医療学推進センターを中心に、我が国初となる「小児脳性麻痺に対する自己臍帯血輸血による治療研究」をはじめ、再生医療における臨床及び基礎研究などに取り組み、特色ある先端医療研究を実施し、新しい診断・治療法の開発・導入を推進する。

次世代医療推進センター及び先端医療学推進センターを中心に、「小児脳性麻痺など脳障害に対する自家臍帯血単核球細胞輸血」、「がんペプチドワクチンの開発」や「耳鼻科領域での再生医療」などの先進医療・再生医療の推進に係る支援を行い、新たな診断・治療法の開発や導入を促進する。

次世代医療推進センター及び先端医療学推進センターを中心に、「小児脳性麻痺など脳障害に対する自家臍帯血単核球細胞輸血」、「がんペプチドワクチンの開発」や「耳鼻科領域での再生医療」などの先進医療・再生医療の推進に係る支援を行い、新たな診断・治療法の開発や導入を促進する。

2ページ目に続く

4
1

患者本位の医療サービスや医療を取巻く環境の変化に対応するため、第2期中期目標期間から継続している病院再開発を着実にを行い、質の高い医療環境を整備する。

病院再開発整備計画(既存診療棟改修)の見直し案の作成を行う。医療環境では、臨床検査室の品質・能力(ISO15189)を維持する。

4
2

安定的な経営基盤を確保するため、経営管理指標、診療科別診療状況等から経営状況を把握・分析を行い、効果的な増収策及び経費削減に向けた改善策を策定・実施し、健全で効率的な運営を行う。

安定的な経営基盤を確保するために、引き続き前年度経営管理指標等の分析を行い、増収及び経費削減策を策定・実施し、効率的な運営を行う。

先端医療学コース学生顕彰制度「相良賞」

先端医療学推進センター長 本家 孝一

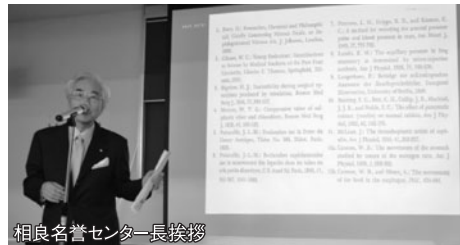
研究は将来の学問に対する投資です。医学生が在学中に習得する知識や技術は過去の遺物です。知識量は年々指数関数的に増加していますので、医師は過去の知識を知るだけでは不十分で、未来の高度医療に対処できる能力をもつことが求められます。『先端医療学コース』では、医学という科学原理の思考と最先端医療開発研究の実践を通して課題を探求し解決する能力を磨き、主体性とリサーチマインドを涵養いたします。研究を行うには正規のカリキュラム時間だけでは不十分なので、放課後や休日にも研究をしなければならないこともあります。学生達は頑張って研究しています。その甲斐あって、研究成果を学会で筆頭演者として発表し、優秀演題賞を受賞する学生が出て来ました。

本学でも独自に優秀な学生を顕彰するために、先端医療学推進センターの産みの親である相良祐輔前学長の名を冠した『相良賞』を平成23年度から授与しています。昨年(平成28年)度は、3年間の研究成果を評価する金賞は、4年生1名(現5年生)、学年毎に1年間の研究成果を評価する銀賞は、3年生2名(現4年生)、4年生2名(現5年生)の5名が受賞しました。今年度の最初の授業日(平成29年4月17日)に3学年の『先端医療学コース』履修生全員を集めて、相良賞授与式と受賞者による研究発表を行いました。

将来、地域医療を目指す学生諸君にとっても、科学的思考能力は不可欠であり、『先端医療学コース』はこれに身につける絶好の機会です。是非、『先端医療学コース』にチャレンジして相良賞をゲットしてください。



受賞者を囲んで



相良名誉センター長挨拶

相良賞「金賞」を受賞して

医学科5年 岩出 良介
(ペプチドワクチン研究班)

本賞の受賞にあたり、私の研究発表に対し、身に余るような高い評価をして頂き、審査員の先生方に大変感謝いたしております。また、本研究にあたり、熱心に指導して頂いた宇高教授をはじめとする免疫学研究室の先生方及び平地さんをはじめとする技術職員の方々には大変お世話になりました。本年より5年生となり臨床実習生として医療現場に立たせて頂くこととなりますが、これまで先端医療学コースで得た知識や考え方をもとに相良賞金賞受賞者として他の学生の模範となるよう精進していきたいと思っております。そして将来的には、常に目の前の疑問に対して、追究していくリサーチマインドを持った医師になっていきたいと思っております。

相良賞「銀賞」を受賞して

医学科4年 有馬 直樹 (腎機能再生医療研究班)

私は内分泌代謝・腎臓内科学の腎機能再生医療研究班にて、2年間お世話になりました。週2回6時間、基礎研究の一端に触れることができ、基本的な研究手技に加え、学会での発表まで体験させて頂きました。急性腎障害の予後を改善しようの研究に少しでも関わることが非常に光栄で、お世話になりました寺田教授と実験助手の方々には感謝に絶えません。

医学科4年 渡部 伸一朗 (メディカルデータマイニング研究班)

このたびは、このような素晴らしい賞を2年も連続でいただくことになり、大変光栄に思います。ご指導いただきましたメディカルデータマイニング研究班の先生方、麻酔科学・集中治療医学講座の先生方にこの場を借りてお礼申し上げます。今回の受賞を励みに、医学の発展に少しでも貢献できるよう一層精進していきます。

医学科5年 田村 友里 (臍帯血幹細胞研究班)

この度は相良賞銀賞をいただき、大変光栄に思います。先端医療学コースに入って約3年間、先生方の熱心なご指導のもと、興味のある課題について夢中になるまで研究させていただいたことは、私にとって大きな財産となりました。この経験を糧に今後、また研究を続けていけたらと思っております。

医学科5年 牧野 博朗 (エコチル研究班)

このたびは、このような栄えある賞をいただき、とても光栄に思います。今回の受賞にあたり、熱心にご指導下さった、環境医学教室の菅沼教授や安光先生をはじめとする先生方や、研究を一緒に手伝ってくれた同級生に感謝申し上げます。今回の研究で得た考察などを大切に、将来臨床の現場に出た時には、多角的に物事へアプローチしていきたいと思っております。

卒後臨床研修を振り返って

新任医師に
ちゅくと
聞いてみた

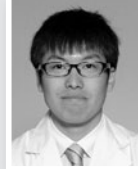
質問事項

- ①氏名(ふりがな)
- ②診療科名
- ③卒後臨床研修の思い出(研修病院)
- ④今後の抱負
- ⑤20年後の自分像

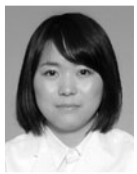
この春卒後臨床研修を修了し、本院に採用された医師27名の中から8名に聞いた、研修の思い出と今後の抱負をご紹介します。



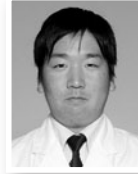
- ① **伊藤 いつみ**(いとう いつみ)
- ② 老年病・循環器内科
- ③ つきっきりで診ていた患者さんが亡くなり、自分の中で一つのターニングポイントになった(近森病院)
- ④ 臨床経験を積みつつ、大学院で論理的思考・研究手法を学びたい
- ⑤ 専門にとらわれず幅広い活動を行いたい



- ① **大山 洗右**(おおやま こうすけ)
- ② 血液・呼吸器内科
- ③ 個性豊かな同期と過ごした時間も含め、2年間全てが大切な思い出です(本院)
- ④ まずは1人前のDr.になれるよう、日々精進します
- ⑤ 頼りになる、同科の上級医のようなDr.を目指したいです



- ① **堅田 千晶**(かたた ちあき)
- ② 産科婦人科
- ③ 熱心に指導してくださる先生方と優しい同期に恵まれ充実した研修ができました(本院)
- ④ 1日1日を大事にして知識や経験を積んでいきたいです
- ⑤ 高知県の産婦人科医療に貢献できる医師になっていると嬉しいです



- ① **芝 佑平**(しば ゆうへい)
- ② 泌尿器科
- ③ 多くの診療科の先生方と研修できたこと(本院)
- ④ 多職種の方々とのコミュニケーションを大切にします
- ⑤ 高知の医療を支える一人の泌尿器科医になりたいと思います



- ① **田中 浩史郎**(たなか こうしろう)
- ② 形成外科
- ③ 細木病院を中心に西は大月、東は安芸まで広くお世話になりました(細木病院)
- ④ お世話になった高知県内の創傷という創傷を治します
- ⑤ 老眼と闘っています



- ① **中越 菜月**(なかごし なつき)
- ② 麻酔科
- ③ 皆様方に支えられ充実した研修を送ることができました(本院)
- ④ 一人前目指して日々精進していきます
- ⑤ 46歳、高知県に貢献できるよう頑張ります

卒後臨床研修を振り返って

新任医師に
ちくと
聞いてみた

質問事項

- ①氏名(ふりがな)
- ②診療科名
- ③卒後臨床研修の思い出(研修病院)
- ④今後の抱負
- ⑤20年後の自分像

この春卒後臨床研修を修了し、本院に採用された医師27名の中から8名に聞いた、研修の思い出と今後の抱負をご紹介します。



- ① 服部 道成(はっとり みちなり)
- ② 精神科
- ③ 心筋梗塞！ Drヘリで急行し救命
できました(高知医療センター)
- ④ 公私ともに充実した生活を送りた
いです
- ⑤ 定年直前(>_<)
人生まとめの時期



- ① 村田 紘子(むらた ひろこ)
- ② 消化器内科
- ③ よく困っては先輩や同期に助けて
もらっていました(高知赤十字病院)
- ④ 目の前のことをひとつずつ頑張っ
ていきたいです
- ⑤ いまご指導いただいている上級医の
先生方に少しでも近づいていきたいです

新任のご挨拶



医学部・病院事務部
総務企画課長

鬼村 博幸

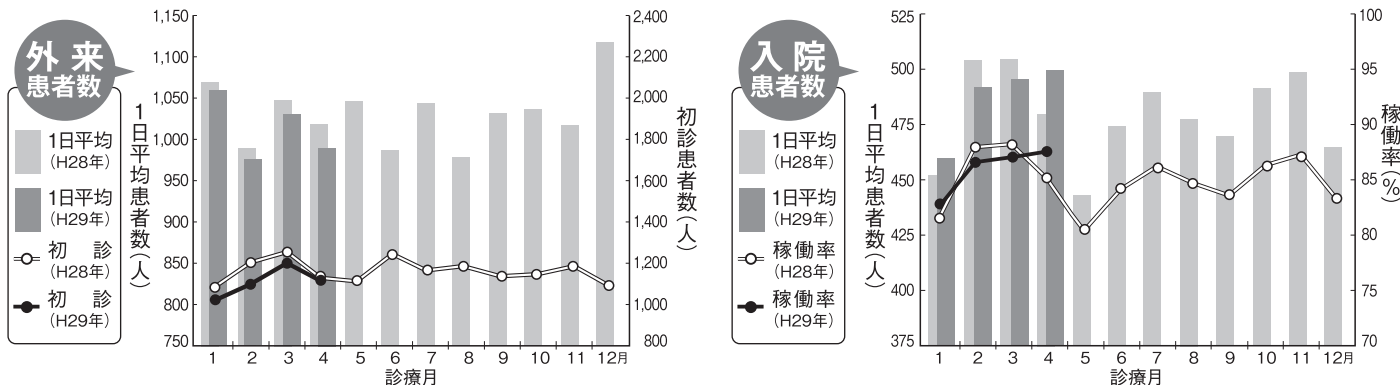
平成29年4月1日付けで医学部・病院事務部総務企画課長を拝命いたしました。

私は出雲大社で有名な島根県出雲市の出身で昭和59年に島根医科大学に奉職いたしました。その後、香川大学医学部に異動し、前任の鳥取大学医学部では医療サービス課長並びに総務課長として勤務してまいりました。本学の総務企画課は総務、人事及び労務管理に加え、受託研究をはじめとする研究支援業務、寄付金の受入れ及び団体等からの助成事業と多岐にわたっておりますが、これまでの経験を少しでも活かすことができると考えております。

医学部長、医療学系長、病院長のご指導のもと微力ではございますが、医学部並びに附属病院の発展のため精一杯努める所存でございます。

今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

診療状況



編集後記

本年度より、病院ニュース編集委員会委員長を仰せつかりました井上啓史です。微力ではありますが、高知大学医学部附属病院の今を伝え、未来に繋がる広報誌となるように努めたいと思います。

本号では、本院の進むべき未来を示す「附属病院に係る平成29年度の年度計画」、また先端医療学コースにおける学生顕彰制度である「相良賞」を受賞された方々の喜びの言葉、さらには卒後臨床研修を修了された先生方に寄稿頂いた生の声を「卒後臨床研修を振り

返って」と題して特集記事に取り上げさせて頂きました。いずれも、まさに今、刮目すべき話題ばかりであり、読者のみなさまにご満足頂けるものと信じております。

本号に続き、次号8月号は、よさこい祭りの熱気さながら、より楽しく、元気いっぱいのお話をお伝えしたいと思います。是非、みなさまの職場における素敵な出来事、新たな取り組み、素晴らしい成果などを教えてください！お待ちしております！

(文責：井上 啓史)